TRIBUNE SHIKOKU

編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。

情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューンしこく tribune

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可　第1616号 令和7年12月15日（月曜日）

《毎月5・15・25日発行》
発行所 ㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219　FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

阿南市物産館・観光案内所

阿南市は、豊富な海の幸、山の幸に恵まれています。自然の味がたくさんつまったお土産を揃えています。

○営業時間／10:00～22:00（物産館は、10:00～17:00）
○休業日／月曜日（祝日の場合は火曜日、12月29日～翌年1月3日）
○問合せ／電話0884-24-3141

徳島県 支離滅裂な情報公開

ある時は「黒塗り」、ある時は「公開」?! 同一文書なのに…

黒塗り理由は嘘っぱち

職員の海外出張旅費

▲公開時期で黒塗り部分が異なる県の公文書。県情報公開審査会への不服申し立てが注目されている。

県民の「知る権利」を恣意的に踏みにじっている。

支離滅裂な情報公開だ。同一の公文書なのに、非開示の黒塗り部分が日替わりで変わっている。ある時は「公開」で恣意的で行き当たりばったりの公文書公開。黒塗り理由もこじつけと嘘っぱち。「透明度UP」を標榜する県後藤田知事の隠蔽。

同一公文書なのに異なる黒塗り部分

本紙は今年五月二十八日、後藤田知事と県職員の海外出張経費について、公文書公開請求を行った。開示されたのは後藤田知事と知事に随行した職員の経費文書だけだった。

職員だけが海外出張した経費文書が非開示だったので、「知事に随行した職員だけでなく、すべての職員の海外出張経費だ」と念を押し、八月二十五日、仕切り直しの公開請求を行った。

五月と八月の公開請求では同一文書が開示された。今年一月に香港出張した北川航空戦略幹（当時）の旅行命令簿兼旅費請求書だ。一月十五日から十八日までセールス活動した。

同じ公文書が二回開示されたのに、黒塗りされた部分は違った。五月請求の開示文書は旅費金額が開示されたが、八月請求の開示文書は旅費金額がすべて黒塗りだった（写真）。

支離滅裂な情報公開は他にもある。八月の公開請求で開示された旅行命令簿兼旅費請求書だ。同じ香港出張なのに、村上副知事の旅費は公開、北川航空戦略幹（当時）の旅費は黒塗りだった。

黒塗り部分がコロコロ変わる国際定期便利用促進事業の公文書公開。担当の観光誘客課は黒塗り理由を香港便運航のグレーターベイ航空の「営業秘密に当たるため」と説明する。

職員の旅費金額を黒塗り、理由は「航空会社の営業秘密にあたるため」

香港便は県がグレーターベイ航空に赤字補填の補助金を出している。運航に要した経費から運賃収入を差し引いた額だ。今年四月から始まった香港便限定の赤字補填だ。

赤字補填は「そんな話聞いていない」と県議会が反発。これまでの補填実績を追及したが、観光誘客課は「グレーターベイ航空の営業秘密に当たる」との理由で開示していない。

黒塗り公開もその流れだ。国際定期便利用促進事業の予算は令和六年度と七年度で八億八千万円。「旅費を公開すると引き算で赤字補填額が推計される」（観光誘客課）との論法。

黒塗り理由は嘘っぱちのでっちあげ

「出張旅費を公開すると、香港便の赤字補填額が推計される」と公文書の黒塗り公開理由を説明する観光誘客課だが、その論理は支離滅裂。辻褄が全くあっていない。

「赤字補填額が推計される」というなら、五月に公開請求した旅費文書も黒塗りにすべきだった。実際は旅費金額を黒塗りせず旅行命令簿兼旅費請求書を公開している。

「職員の出張旅費を公開すると、香港便の赤字補填額が推計される」という論法そのものが嘘っぱちだ。赤字補填は「補助金」、旅費は「事務費」。そもそも財布が違う。

国際定期便利用促進事業の予算約八億八千万円の内訳は、補助金が七億七、三七六万円、委託費が六、四四〇万円、事務費が四、三一七万円だ。赤字補填の財布は補助金だ。補助金の交付先は航空会社や旅行会社など。旅行会社などに交付された補助金額が開示されたら、引き算で香港便の赤字補填額が推計されるが、旅費を公開しても推計されない。

財布が違う補助金と旅費を無理やりリンクさせ、理由にならない嘘っぱちの理由をでっち上げ、黒塗り公文書を公開しているということだ。明らかな行政情報の隠蔽だ。

航空会社と県の口頭のやり取りで決まった赤字補填

行政情報を隠蔽し、赤字補填金を秘匿する徳島県。それは赤字補填金が一種の裏金だからだ。裏金を配達するのが徳島空港利用促進協議会。官民混在の任意団体だ。

グレーターベイ航空への赤字補填は同社からの要望を受け、県が決めた。問題は「ペーパーレス」。同社からの要望書や県内部の意思決定、決裁文書が存在しない。

口頭のやり取りで決まった赤字補填。金額は知事が決める。金は県が協議会に補助金として支出。協議会が航空会社に渡す。協議会は任意団体なので県議会はチェックできない。

予算化された合法的な裏金ともいえる赤字補填。観光誘致課は「補填額は航空会社から経費資料の提出を受けて積算している」と説明するが、情報公開では資料は一切開示されない。

補助金を分配する徳島空港利用促進協議会

徳島空港利用促進協議会は徳島空港の利用促進を目指す任意団体だが、実態は県からもらった補助金を民間に分配する補助金ばら撒き団体だ。事務局は県庁にある県職員が仕切る。

県は国際定期便利用促進事業の補助金予算を財源として、協議会に補助金を交付。協議会は県の補助金を財源として助成事業を展開。航空会社や旅行会社に助成金を出す。

問題は協議会のメンバーだ。県、徳島市、松茂町のほか、徳島空港ビル㈱、日本航空㈱、全日本空輸㈱、㈱エアトラベル徳島、㈱徳島空港サービス、日本通運㈱、徳島バス㈱等だ。自治体や航空会社、旅行会社等で構成された協議会が、県から補助金をもらい、航空会社や旅行会社等に助成金を出しているということだ。補助金の分配団体とも言えそうだ。

任意団体をトンネルに使った補助金のばらまき

県議会のチェックや情報公開が及ばない任意団体をトンネル団体に使い、公金を合法的にばら撒くのは飯泉前知事お得意の錬金術だった。記念オケでは約十一億円をばら撒いた。

県政改革を掲げる後藤田知事だが、国際定期便利用促進事業でやっているのは飯泉前知事の一番煎じ。任意団体をトンネルに使い、航空会社や旅行会社に公金をばら撒いている。

「透明度UP」を掲げる後藤田知事。やる気があるなら、グレーターベイ航空への赤字補填など七億七、三七六万円の補助金予算の使途実態を公開し、「透明度UP」の本気度を県民に見せるべきだ。

後藤田知事公約集

「暴走症候群」続出だ。徳島県の後藤田知事だ。新ホール選挙公約の「建設費半減」にこだわり、自爆。国際戦略は高校生をだしに使うなどなりふり構わぬ「GO TO KOREA」が、「県庁はいつから旅行会社になったのか」と県民の顰蹙を買っている。県政改革を訴え当選したが、浮かび上がるのは統治能力の欠如。副知事など重臣は物言えば唇寒しか、「大風呂敷やハッタリはいい加減にすべし」との箴言は不発。県民間には「期待外れだった」と後藤田離れが加速する。任期半ばで早くも切れ始めた後藤田知事の「賞味期限」…。

面子に拘り、暴走。自爆した新ホール

最大の暴走は、新ホール。飯泉前知事ホールの「建設費半減」公約に固執。予算一六二億円で入札したが、ゼネコンに相手にされず二回続けて入札不調。予算増額に踏み切った。

「ホールやアリーナはいつできるのか」の声に、アスティ徳島の改修計画が浮上。「過去に一度検討し、断念したはず。本気か」と県庁内は場当たり計画に半信半疑だ。

あすたむらんど徳島も入庁予定者にキッザニアのようなテーマパーク化構想を吐露。「また思い付きか。口が軽過ぎる。そんな金、どこにあるのか」と県議らを呆れさせた。

新ホールやアリーナ新設、アスティ徳島改修、あすたむらんど徳島のテーマパーク構想。事業化されたり漏れ聞こえる施設整備構想には大風呂敷を広げた砂上の楼閣感が漂っている。

なりふり構わぬ「GO TO KOREA」勧誘活動

国際戦略では、「GO TO KOREA」のなりふり構わぬ勧誘活動が顰蹙を買っている。まるで韓国のLCC、イースター航空の営業マンに成り下がったかのようだ。

知事自らが企業・団体関係者に声を掛けている。「知事から二回、三回と『韓国に行ってよ』と言われた。断り切れず、仲間で観光旅行に行きました」（団体関係者）。

県職員も旅行会社社員のように企業に勧誘電話をかけている。「県職員から『会社の研修旅行で韓国に行きませんか』と電話がかかってきました。びっくりしました」（会社社長）。

高校生も勧誘活動に使われた。「修学旅行は韓国へ」と知事自らが発言した動画を撮影させ、校長に見せさせるなど、韓国旅行勧誘のメッセンジャーとして使った。

まるでノルマに追われる営業マン、疑問呼ぶイースター航空への肩入れ

高校生をメッセンジャーに使ってまでイースター航空を活用した韓国旅行の勧誘に奔走する知事と県職員。その姿はノルマ達成に追われる営業マンの姿を彷彿とさせる。

ノルマとして推測されるのが「搭乗率」だ。「搭乗率が採算ラインを下回ったら、撤退する」とイースター航空から撤退条件を突きつけられているのではないか。

県とイースター航空は昨年五月と八月、路線の開設と維持に関し覚書と協約を締結しているが、「ノルマや撤退条件を明示した文書は存在しない」（観光誘客課）と説明する。

もしノルマや撤退条件が存在し、知事や職員がノルマ達成に走り回っているなら、知事や職員はイースター航空の営業マンだ。徳島をアピールする「県民の営業マン」ではない。

飛行機は交通手段だ。県が進める国際戦略が飛行機を満杯にすることを目的にしているなら、本末転倒だ。現在の知事や職員の姿はまるでイースター航空の徳島県庁支店だ。覚書や協約は「人的・物的・商業的交流の拡大」を謳っているが、どれだけの成果が出ているのか。「LCCで韓国旅行に行ってきました」だけでは公費投入の意味がない。

イースター航空の営業マンか?

顰蹙買う過度な勧誘活動

見えてこない徳島にしかないレガシーづくり

五期二十年の飯泉前県政は「失われた二十年」だった。マラソンやオーケストラなど県民受けする一過性のイベントに公費を濫費。徳島にしかないレガシーを残さなかった。

飯泉県政を批判し、県政改革を訴え、知事に当選した後藤田氏だが、やっていることは飯泉前知事と似たり寄ったり。大風呂敷は広げるが、徳島しかない魅力づくりの視点がない。

ホールやアリーナの整備を打ち出すが、日本はいまや「ホール列島」「アリーナ列島」。至るところで整備計画が進み、集客や交流を目的とした過当競争が激化している。

ハイブリッドなホールやアリーナを整備し、過当競争に参入するのも選択肢だが、ホールやアリーナの数百億円の予算を活用し、徳島にしかないレガシーづくりに叡知を注ぐべきだ。

「世界に徳島にしかない魅力溢れるレガシーがあれば、国際便が飛んでなくても、世界中から徳島に人がやってきます。現存する資源のPRも下手です」（観光業界関係者）。

「知事ロス」現象が瓦解を招く県民との信頼関係

国際戦略優先でソウル、チェジュ、香港、バンコクを飛び回る後藤田知事。当然県内の地方自治や県庁の組織運営は二の次、三の次。「知事ロス」現象が相次いでいる。

町制施行記念など市町村の公式行事のドタキャン、消防操法大会など県主催行事の欠席など、相次ぐ「知事ロス」現象が県民間に「知事離れ」現象を引き起こしている。

知事は選挙公約で「県の本来業務である『広域・補完・総合調整』の役割を果たす」ともっともらしい題目を並べるが、実現するためには市町村や県民との信頼関係が不可欠だ。

相次ぐ「知事ロス」現象は「県民の顔色を見る」という公約は何だったのか。私たちのことはどうでもいいのか」と知事自らがその信頼関係を崩壊させている。

「消防操法大会は県内の消防団が一年に一度集まる大会。知事自らが災害対策の最前線にいる消防団に防災の心構えを語ってほしかった。欠席は『言語道断だ』（消防団関係者）。

嘘っぱち公約も県民との信頼関係を氷解させている。典型例が阿波病院存続問題だ。選挙で「建て替え」と公言したが、結果は高野川医療センターへの統合。病院が消える。

「選挙期間中、病院駐車場で病院関係者ら約三百人に訴えました。結果は言いっ放し。約束が実現できないのに、何の説明もない。言葉に責任を持たない知事なんです」（関係者）。

二の次になった「地方自治」

期待外れだった県政改革

当たり公約の化けの皮が剥げ、県民との信頼関係が次々と瓦解する後藤田知事。県庁内の統治能力欠如も露呈するなど、任期半ばで早くも賞味期限が切れ始めている。

県議会最大会派の自民党県議らからも、事業者が決まらない新ホールなど県政の停滞について、「もうそろそろ限界」と後藤田知事へのレッドカードを視野に入れ始めている。

野党県議間では新しい知事候補擁立が動き出している。県政改革を掲げ颯爽とデビューした後藤田県政。現状では県民に持続可能な活力と恵みをもたらすことは期待できそうにない。

瓦解する県民との信頼関係

見～つけた!! 街角美人 №157

大阪市内のライブスポットのイメージガール。きびきびした物腰で客の注文をこなしていた。華やかな存在感で注目を集める。

話を聞くと、名前はルイさん。二十二歳。大阪市内在住の大学生。近づいて写真を撮ろうとすると、やんわり「NOサイン」。

「徳島から来ました」と耳打ちすると、「遠くからこっそり撮ってね」。愛くるしい笑顔をウンショット。帰り際に「写真を送ってくださいね」のメッセージ。気立てのいいお嬢さんだ。

あなたの情報大募集!! 秘密厳守

守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。

本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。

「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。

社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。

〒770-0874
徳島市南沖洲2丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

購読料：年間 8,400円　トリビューン・電子版 tribune.web

購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。

お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

隙間の声

四月町長選 東みよし町 「ずっと住みたい」まちづくりを 三選目指す 松浦町長

藤枝氏

松浦町長

元徳島県職員が対抗馬に浮上

現職の三選なるか。四月の東みよし町長選。三選目指す現職の松浦敬治町長に元県職員の藤枝主市氏が挑む。庁舎統合問題で東みよし町と裁判中。法廷バトルが政争に発展した。

松浦町長は町議から転身した。現在二期目。過去二回の町長選はいずれも選挙戦に突入した。元町議や僧侶等と戦ったが、いずれも千票以上の差をつけ対立候補を退けた。

来年四月の町長選も対抗馬が現れた。県職員OBの藤枝氏。庁舎統合問題で町の対応を批判。町を相手取り提訴、新庁舎建設にかかる予算の執行停止を求めている。

庁舎問題が争点の一つになりそうな町長選。松浦町政のまちづくり実績も争点だ。初当選時に訴えた「ずっと住みたいと実感できるまちづくり」はどこまで実現しているのか。

二期目の四年間、松浦町長は様々なソフト、ハード事業を展開した。保育料無料化、乗合タクシーの運行開始、にし阿波いちごタウンプロジェクトの始動。危機管理課を設置した。

吉野川ハイウェイオアシスは新あいあい橋や加茂農村公園の新遊具を整備、魅力度を高めた。三好東部火葬場「吉野の風」を供用開始。みかも認定こども園も開設した。

三好市と共同で取り組む広域行政では、民間とタイアップしたごみ処理施設の整備に着手。し尿を処理する浄化センターを整備。効率的な行政運営と施設整備を行った。

にし阿波いちごタウンプロジェクトは、一年中いちごが生産できる特性を生かし、東みよし町や徳島県、企業や生産組合など官民参画のいちごタウンを整備しようというものだ。

メインは観光いちご農園。いちごグッズの販売や新規就農者の研修ハウス機能も持たせ、観光客の誘致や就農希望者の受入れなど、いちごをキーワードにした地域活性化を目指す。

乗合タクシーは町内のタクシー会社とタイアップした送迎サービス。町民の利便性向上を目指す。事前予約制で基本料金は三キロまで五百円。同乗者一人につき二百円加算される。

二期八年間自然体の政治姿勢で「ずっと住みたい」まちづくりを進めた松浦町長。これまでの町政運営の実績を町民がどう評価するか。町長選は四月七日告示、十二日投開票だ。

ザ・チェック

予備軍はまだいる?! 県内自治体「ハレンチ列伝」 逮捕された「盗撮県議」

古川元県議

「ハレンチ予備群」は他にいないのか。「盗撮県議」の暗躍が発覚した徳島県。県庁や県内自治体関係者には、人生が暗転したどこか滑稽で物悲しい「ハレンチ列伝」が数多い。

「盗撮県議」はスマホの操作音からデリヘル嬢に盗撮がバレ、警察に突き出された。性的姿態撮影等処罰法違反の疑い。あっけなく容疑を認め、他の撮影事例も自供している。

デリヘルトラブルでは、徳島市の五千円窃盗係長が衝撃的だった。平成二十三年、ホテルに呼んだデリヘル嬢の財布から盗んだ。係長はデリヘル嬢を標的にした常習窃盗犯だった。

係長に呼ばれたデリヘル嬢の財布から現金が抜かれる被害が続発。店が係長をマーク。現場を押さえて警察に通報した。係長は懲戒免職。係長は五千円で公務員生活を棒に振った。

徳島県の農林水産部長も五千円で失職した。パチンコ店で精算機にあった五千円を窃盗。警察も公表しない微罪だったが、部長は正直に副知事に報告。懲戒免職された。

大阪本部の猥褻画像サーバー共有係長もショッキングだった。フェラチオや女性の全裸画像をサーバーに保存。他の職員らと閲覧していた。女性職員が公益通報。騒動になった。

「誤って保存した」として文書訓告処分された。公益通報した女性職員は「公益通報で不当な扱いを受けた」と当時の飯泉知事を提訴。最高裁は知事に十万円の支払いを命じた。

女性職員は公益通報や裁判で、宿舎マンションのドアポストに上司の次長が「好きです」と恋文を投函していたことを暴露。「大阪本部は工口本部か」と話題を呼んだ。

公用車で靴下等を盗んだ「足フェチ副課長」も県庁を激震させた。昼休みに自転車で出動。目星をつけていた物干し場の女性用靴下を盗み、張り込み中の警察に御用になった。

県庁の机やキャビネットからは女性用靴下やストッキング、サンダル等が大量に見つかった。将来を嘱望されたエリート幹部だったが偏執的な「足フェチ」に足をすくわれた。

「ラブドール係長」も話題を呼んだ。藍染のPRイベントでマネキンの代わりに活用。委託業者とともに大阪の展示場で購入。公用車で徳島に持ち帰った。代金は約四十万円。

係長は当時の飯泉知事直系だったが、虚偽公文書の作成等が問われ懲戒免職された。ラブドール係長は県庁を去ったが、「藍ちゃん」と呼ばれたラブドールは今も倉庫で眠ったままだ。

フーゾクマニアで有名な町長もいる。町議時代、夜の徳島市で「いい店ないか」と右往左往。当時の町長にバイアグラ入り焼酎を飲ませた逸話も。町長になりフーゾク熱も冷めたか。

個性豊かな公職者のハレンチ列伝。フーゾクや性的嗜好に癒しを求め英気を養うのは結構だが、犯罪やハラスメントはNGだ。エロ事に注力する情熱を公務に捧げてもらいたい。

後藤田知事実兄で医師の後藤田卓志氏。次期衆院選徳島二区からの出馬が取り沙汰されていたが、弟の人気が失政で陰り始めたためか、出馬断念説浮上。

生活保護費の国庫負担金過大請求問題で、職員の聞き取り調査資料を市議会百条委員会に提出した徳島市。「個人情報を黒塗りしたい」と資料返還を申し入れ。「一度受け取った資料を返せるか」と百条委員会を激怒させるドタバタ騒動。

イースター航空の徳島・ソウル定期便。高校生を巻き込む後藤田知事の営業効果か、年間乗客数は約四万五千人で平均搭乗率は八十%以上。人気の高さをPRするが、韓国人ユーチューバーは「徳島市内はシャッター通り。街が暗い」と酷評。

とりびゅーん・しこく